

273 心筋梗塞における In-111 抗ミオシン心筋シンチと Tl-201 心筋シンチの比較検討

山本寿郎, 成瀬 均, 森田雅人, 川本日出雄, 板野緑子, 福武尚重, 大柳光正, 藤谷和大, 岩崎忠昭(兵庫医科大学第一内科), 福地 稔(同核医学科)

急性心筋梗塞において, In-111 標識抗ミオシン心筋シンチ(InAM)と急性期 Tl-201 心筋シンチ(Tl)および亜急性期または慢性期 Tl との相違を検討した。対象は急性心筋梗塞 15 例で SPECT 像にて左室心筋を 9segment に分け, InAM と Tl を比較検討した。InAM の集積と Tl の灌流欠損が一致した例が 7 例(match 群), InAM と Tl の集積が一部重複した例が 8 例(overlap 群)見られた。match 群では亜急性期または慢性期 Tl の改善を認めた例はなかったが, overlap 群の 8 例中 3 例で Tl の改善を認めた。以上より overlap 群においては viable な心筋が存在する可能性が示唆された。

274 AMI における ¹¹¹In-antimyosin antibody-201 TlCl Simultaneous Dual SPECT について

吉田 裕, 坂田和之, 星野恒雄(静岡県立総合病院循環器科) 望月 守(静岡県立総合病院核医学科)

Indium-111 antimyosin antibody (AMA) の AMI における集積を thallium-201(Tl) との Simultaneous Dual SPECT (S-DSPECT) 及び PLANAR を用いて評価した。対象は初回心筋梗塞で発症早期に intracoronary thrombolysis (ICT) を施行し良好な reflow が得られた 7 例である。AMA-Tl S-DSPECT は発症から 11-36 日目に行った。AMA は SPECT で全例梗塞部位に一致して集積したが, PLANAR では 3 例が faint に集積し梗塞部位の同定には SPECT が必要であった。全例 AMA と Tl との overlap accumulation を梗塞の risk area 内に認めた。AMA-Tl S-DSPECT は AMI の診断に有効であり, AMA と Tl との overlap は ICT 施行後の心筋の viability の判定に有効であると考えられた。

275 再灌流により壊死を免れた心筋における抗心筋ミオシン抗体摂取の検討

田中 健, 相澤忠範, 加藤和三 小笠原憲, 桐谷肇, 岡本 淳(心臓血管研究所)

再灌流により壊死を免れ壁運動が改善した心筋における抗心筋ミオシン抗体摂取を二核種同時集取心筋 SPECT により検討した。対象 5 例は心電図に QS を認めるが左室造影による慢性期左心駆出率は平均 66%(54-72)であった。酵素上昇程度は MB で平均 312(216-518)であった。抗心筋ミオシン抗体摂取部位の %Tl uptake ratio は平均 86%(95-68)であり, この範囲は急性期のピロリン酸取り込み部位を含んでいた。抗心筋ミオシン抗体は PCR により壊死を免れ慢性期に壁運動が改善した心筋にも摂取されることが認められた。心筋を壊死にいたらせる虚血により心筋細胞膜に障害が生じるがこの障害は発作後 2 ヶ月では改善し得てないと考えられた。

276 心筋梗塞症における ¹¹¹In 抗ミオシン抗体を用いた心筋 SPECT の検討

久保田昌宏, 津田隆俊, 岩窪昭文, 森田和夫, (札幌医大放射線科) 中田智明, 田中繁道, 飯村攻(札幌医大第二内科)

急性期から慢性期まで心筋梗塞症 18 例に ¹¹¹In 抗ミオシン抗体を用いて心筋 SPECT を行なった。全例の梗塞巣に ¹¹¹In 抗ミオシン抗体の集積を認めた。梗塞巣の ¹¹¹In 抗ミオシン抗体の集積部位は, 急性期に行なった 8 例の ^{99m}Tc PYP 心筋 SPECT の ^{99m}Tc PYP 集積部位とはほぼ一致した。¹¹¹In 抗ミオシン抗体 SPECT より算出した梗塞容積は ^{99m}Tc PYP 心筋 SPECT より算出した梗塞容積と $r=0.775$ および ^{99m}Tc RBC gated pool 法より算出した左室駆出分画と $r=0.541$ の有意の相関を認めた。本法は, 心筋梗塞の急性期のみならず亜急性期, 慢性期の心筋病変を描出でき, 定量評価も可能と考えられた。

277 急性心筋梗塞(早期 PTCA 成功例)に対する ¹¹¹In-Antimyosin 心筋イメージング

岡田邦博, 荒井正純, 松尾仁司, 琴尾泰典, 渡辺佐知郎(県立岐阜病院循環器科) 今枝孟義(岐阜大学放射線科)

我々は発症後早期(8.1±4.9h)に PTCA を実施し狭窄度 25~50%以下に改善した完全閉塞 8 例の急性心筋梗塞に PTCA 後 5.5±3.8 日, ¹¹¹In-Antimyosin (AM) を投与し, その心筋イメージングを発生 1 ヶ月後の左室造影における壁運動異常の程度と比較検討し, 早期 PTCA の心筋サルベージに対する評価法としての AM の有用性を検討した。1) 視覚判定による AM の心筋集積の程度は慢性期左室造影における壁運動異常の程度と $r=0.85$ ($t>0.01$) と高い相関を示した。2) AM 心筋イメージングは, 早期 PTCA 実施後の AMI の予後判定に有用と思われた。

278 ¹¹¹In-抗ミオシン抗体心筋シンチグラフィによる非虚血性心筋病変の検出

高橋尚子, 中田智明, 田中繁道, 飯村 攻(札幌医大第二内科) 久保田昌宏, 津田隆俊(札幌医大放射線科)

¹¹¹In-抗ミオシン抗体 (InAM) 心筋シンチグラフィの非虚血性心筋病変検出上の有用性を検討。対象は心筋症 4 例, 心筋炎 2 例, 心腫瘍・心室細動 (VF)・アドリアマイシン (ADM) 投与各 1 例の計 9 例で, InAM 2mCi 投与後平面像を得, 心集積度 (0~+3) と, その範囲 (3 方向, 15 区域) を評価。右室拡張症 (ARVD), VF, ADM を除く 6 例 (67%) で陽性。平均集積度 2.0 ± 0.3 , 区域数 11.0 ± 1.3 と急性心筋梗塞 8 例と同様かそれ以上の陽性像を描出。以上, 本例は冠動脈疾患以外にも, 心筋炎, 肥大型心筋症, 産じょく心筋症, 心腫瘍へも集積し, これら疾患の心筋病変検出にきわめて有用と考えられた。